

Ⅲ 救急・救助

第 1 救急活動の概況

1 救急業務実施体制

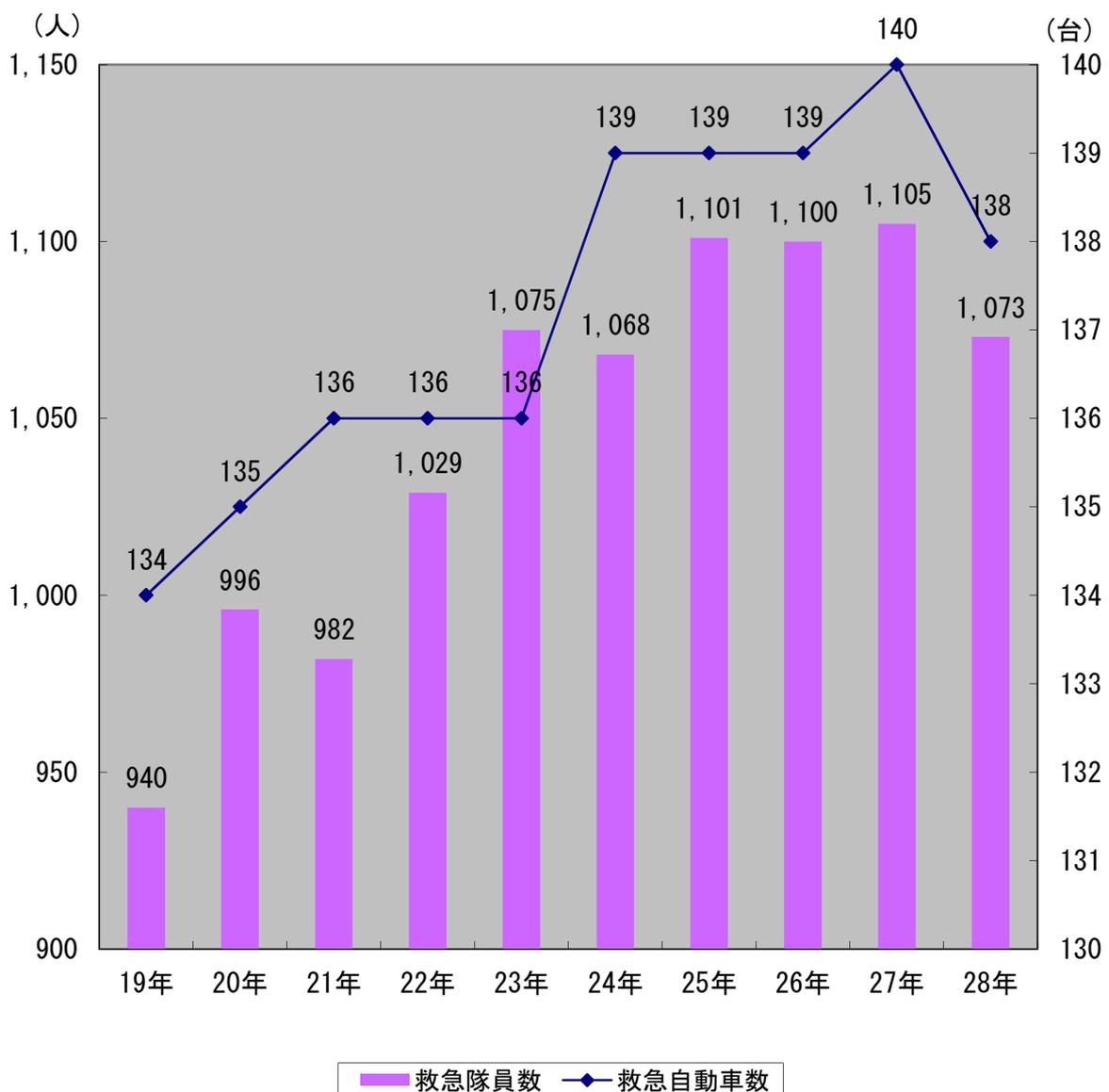
平成28年4月1日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口の99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は138台、救急隊員は1,073人（専任282人，兼任791人）で、前年に比べ救急隊員は32人減少している。また、救急告示医療機関は97機関，その他医療機関は1,386機関となっている。

平成3年8月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

平成28年4月1日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計594名のうち484名が救急業務に従事している。

図 1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移（各年4月1日現在）



2 救急業務実施状況

(1) 概要

平成27年中における救急出動件数は79,642件、搬送人員は73,492人で、いずれも過去最多となった。

また、これを昨年と比べると救急出動件数は2,093件（2.6%）の増加、搬送人員は1,671人（2.3%）の増加となっている。

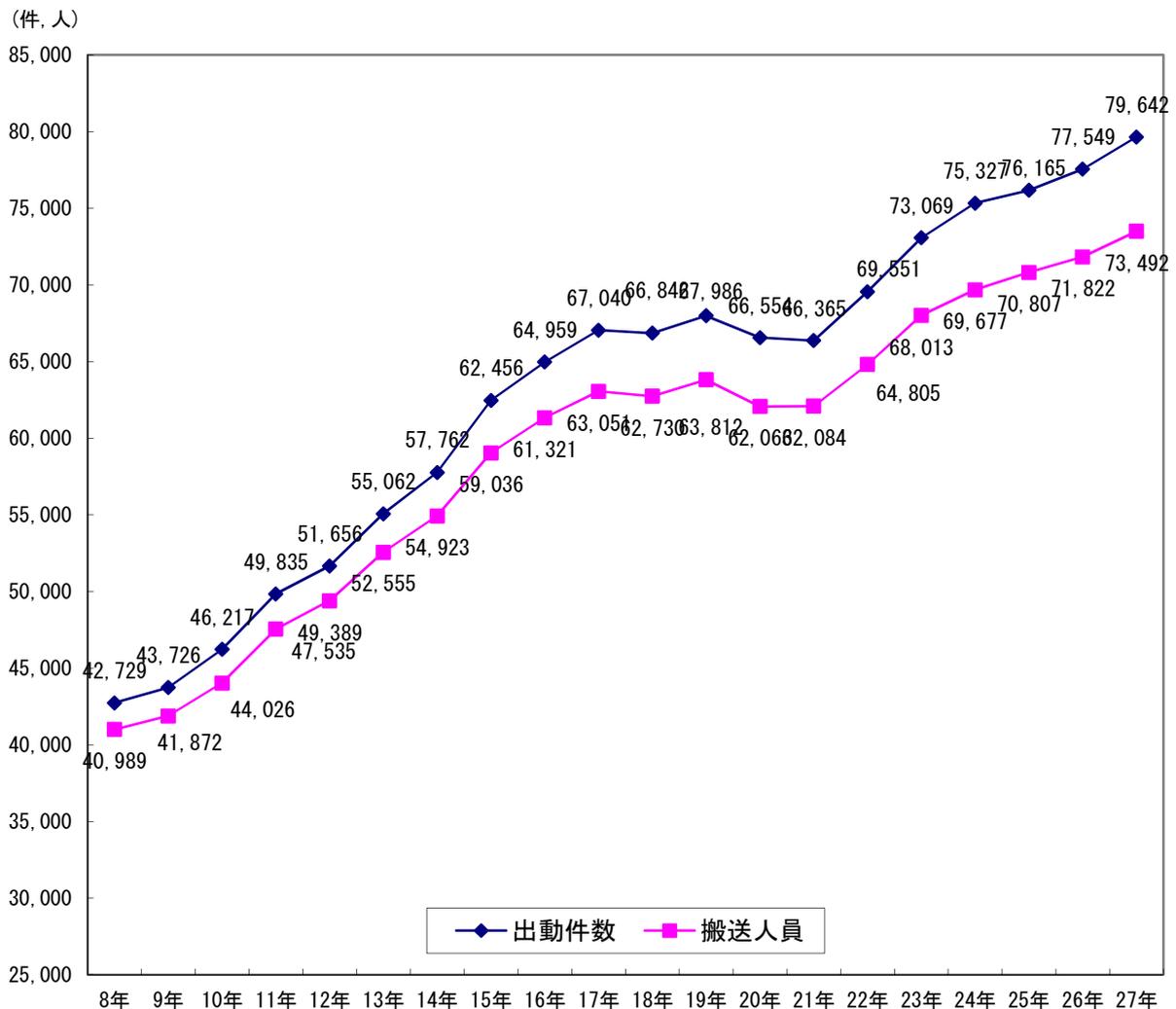
これは、1日平均218.1件（前年212.5件）、約6.6分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均201.3人（前年196.8人）、約7.1分に1人の割合で搬送されている。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で47,528件（全体の59.6%）、次いで、一般負傷10,624件（同13.3%）、交通事故が5,928件（同7.4%）となっている。

なお、搬送人員については、救急出動件数と同様、1位が急病で43,438人（全体の59.1%）、次いで、一般負傷が9,973人（同13.5%）、交通事故が5,829人（同7.9%）となり、上位3位までで全体の約80.6%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばいとなっていたが、平成22年から再び増加に転じている。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別，傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

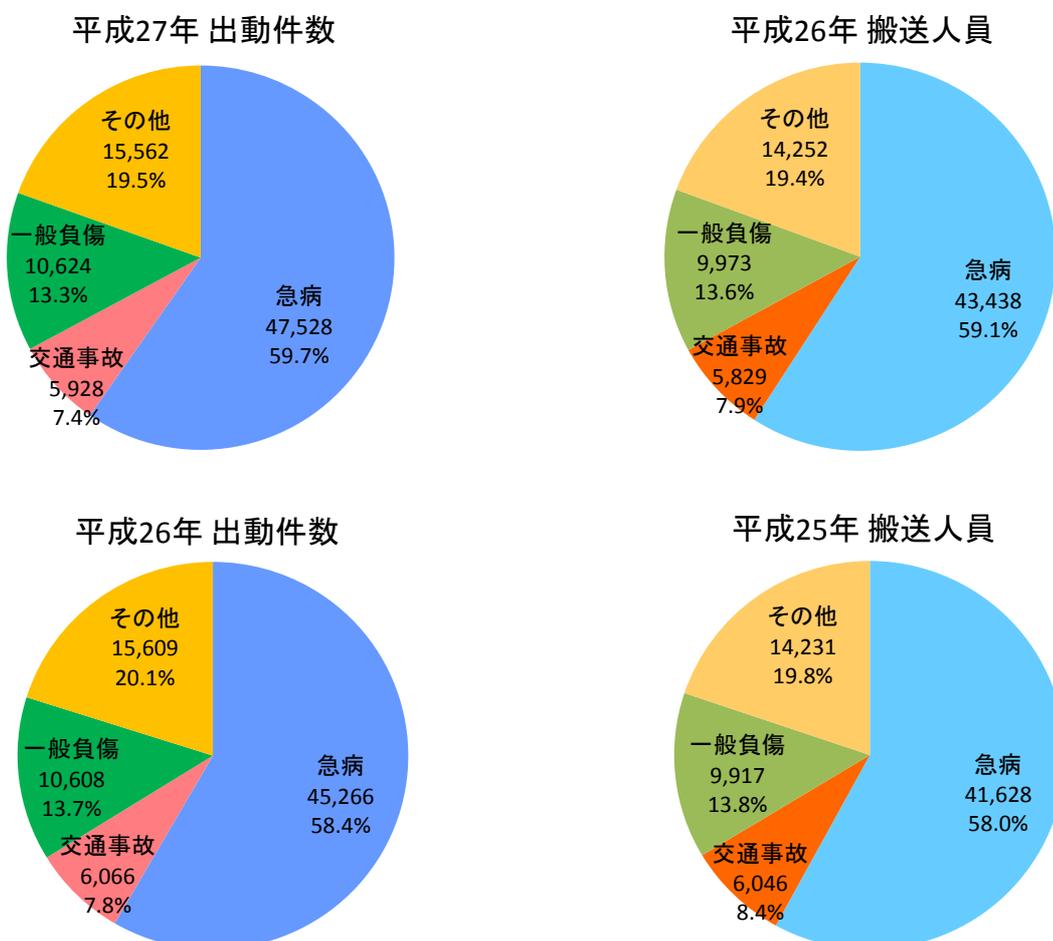
(単位：件，人，%)

区分	計	構成比	急病		交通事故		一般負傷		その他		
			急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比	
平成27年	出動件数	79,642	100.0	47,528	59.7	5,928	7.4	10,624	13.3	15,562	19.5
	搬送人員	73,492	100.0	43,438	59.1	5,829	7.9	9,973	13.6	14,252	19.4
平成26年	出動件数	77,549	100.0	45,266	58.4	6,066	7.8	10,608	13.7	15,609	20.1
	搬送人員	71,822	100.0	41,628	58.0	6,046	8.4	9,917	13.8	14,231	19.8
増減	出動件数	2,093	—	2,262	—	△ 138	—	16	—	△ 47	—
	搬送人員	1,670	—	1,810	—	△ 217	—	56	—	21	—

(注) その他は，火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

図3

(単位：件，人，%)



ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，%)

区分	計		急病		交通事故		一般負傷		その他	
	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
新生児	145	100.0	21	14.5	2	1.4	9	6.2	113	77.9
乳幼児	2,707	100.0	1,682	62.1	166	6.1	579	21.4	280	10.3
少年	2,384	100.0	977	41.0	582	24.4	276	11.6	549	23.0
成人	23,217	100.0	13,117	56.5	3,503	15.1	2,122	9.1	4,475	19.3
高齢者	45,039	100.0	27,641	61.4	1,576	3.5	6,987	15.5	8,835	19.6
合計	73,492	100.0	43,438	59.1	5,829	7.9	9,973	13.6	14,252	19.4

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

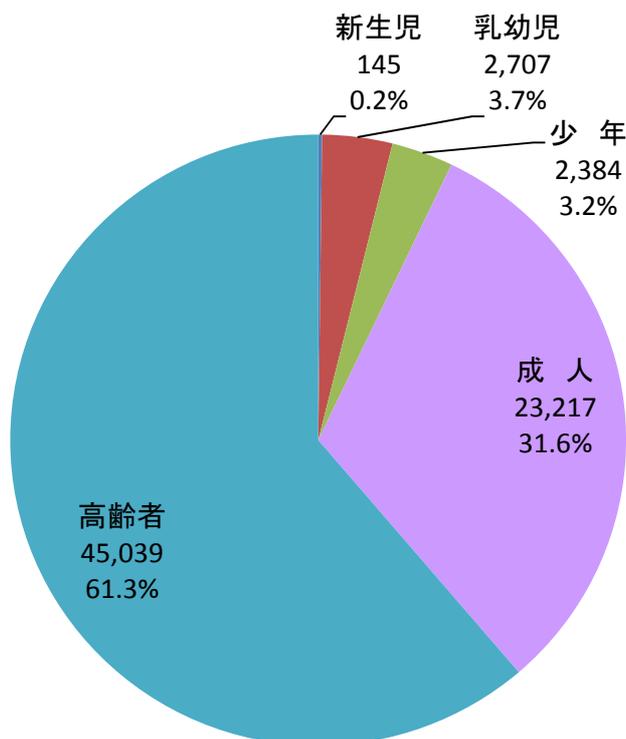
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



イ 傷病程度別搬送人員

平成27年中における搬送人員は73,492人であるが、これを傷病程度別にみると、軽症、中等症の両者で全体の87.4%を占めている。

表3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人，％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
火災	61	100.0			9	14.8	19	31.1	33	54.1		
自然災害	9	100.0					4	44.4	5	55.6		
水難	48	100.0	12	25.0	12	25.0	16	33.3	8	16.7		
交通事故	5,829	100.0	50	0.9	329	5.6	1,834	31.5	3,616	62.0		
労働災害	581	100.0	9	1.5	83	14.3	295	50.8	194	33.4		
運動競技	541	100.0	4	0.7	13	2.4	181	33.5	342	63.2	1	0.2
一般負傷	9,973	100.0	104	1.0	935	9.4	4,601	46.1	4,330	43.4	3	0.03
加害	225	100.0	2	0.9	4	1.8	76	33.8	143	63.6		
自損行為	528	100.0	37	7.0	97	18.4	245	46.4	149	28.2		
急病	43,438	100.0	711	1.6	3,801	8.8	23,345	53.7	15,575	35.9	6	0.01
その他	12,259	100.0	15	0.1	3,058	24.9	8,724	71.2	418	3.4	44	0.4
計	73,492	100.0	944	1.3	8,341	11.3	39,340	53.5	24,813	33.8	54	0.1

- ※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの
- ※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の比率が高くなっている。

表4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人，％）

区分	合計		死亡	構成比	重症		中等症		軽症		その他	
	合計	構成比			重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	145	100.0	1	0.7	34	23.4	87	60.0	21	14.5	2	1.4
乳幼児	2,707	100.0	12	0.4	61	2.3	739	27.3	1,893	69.9	2	0.1
少年	2,384	100.0	12	0.5	74	3.1	785	32.9	1,509	63.3	4	0.2
成人	23,217	100.0	181	0.8	1,887	8.1	10,927	47.1	10,200	43.9	22	0.1
高齢者	45,039	100.0	738	1.6	6,285	14.0	26,802	59.5	11,190	24.8	24	0.1
計	73,492	100.0	944	1.3	8,341	11.3	39,340	53.5	24,813	33.8	54	0.1

(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

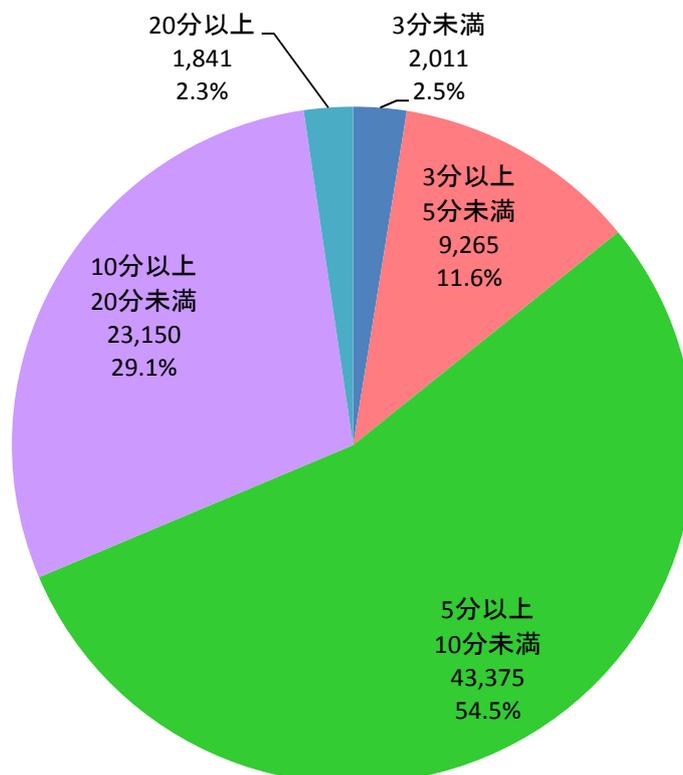
平成27年中の救急出動件数79,642件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の43,375件で全体の54.5%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	47,528	924	4,235	26,106	15,158	1,105	8.8分	—
交通事故	5,928	130	585	3,088	1,917	208	9.1分	—
一般負傷	10,624	232	1,028	5,789	3,300	275	8.8分	—
その他	15,562	725	3,417	8,392	2,775	253	7.2分	—
計	79,642	2,011	9,265	43,375	23,150	1,841	8.5分	8.6分
構成比	100.0%	2.5%	11.6%	54.5%	29.1%	2.3%	—	—

図5



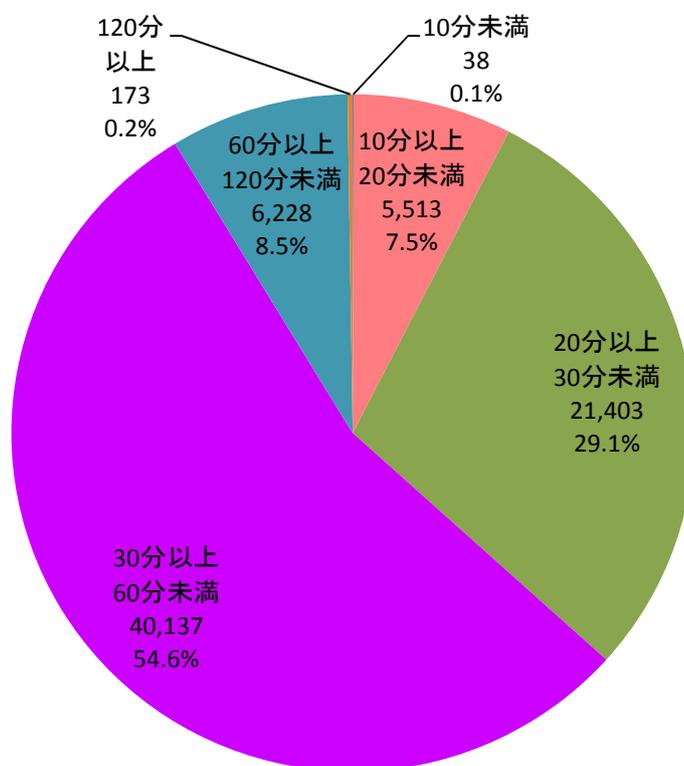
平成27年中の搬送人員73,492人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち46,538人（63.3%）が収容に30分以上要している。

表6 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	43,438	14	2,478	12,682	25,052	3,152	60	36.9分	—
交通事故	5,829	2	265	1,614	3,385	554	9	38.5分	—
一般負傷	9,973	3	557	2,763	5,768	852	30	38.1分	—
その他	14,252	19	2,213	4,344	5,932	1,670	74	36.7分	—
計	73,492	38	5,513	21,403	40,137	6,228	173	37.2分	39.4分
構成比	100.0%	0.1%	7.5%	29.1%	54.6%	8.5%	0.2%	—	—

図6



- (4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況
 搬送人員73,492人のうち99.4%は、転送なしで収容されているが、
 0.7%（491人）にあたる人は転送されている。
 そのうち、転送回数1回の者が転送者全体の99.8%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他	
転送なし	73,065	43,165	5,797	9,907	14,196	
転送	1回	426	272	32	66	56
	2回	1	1			
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	427	273	32	66	56
計 (B)	73,492	43,438	5,829	9,973	14,252	
転送率 (A)/(B)×100	0.6	0.6	0.5	0.7	0.4	

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

表8 医療機関転送理由の状況

(単位：件，%)

区分		合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救急告示	構成比	100.0	1.9	26.5	0.6		55.5		15.5
		155	3	41	1		86		24
非告示	構成比	100.0	2.2	22.2			64.3		11.3
		230	5	51			148		26
計	構成比	100.0	2.1	23.9	0.3		60.8		13.0
		385	8	92	1		234		50

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

平成27年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定・血圧測定の順で処置が多くなっている。

表9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別	計	急病	交通事故	一般負傷	その他				
	応急処置対象 搬送人員	72,333	43,049	5,745	9,838	13,701				
止	血	1,791	200	333	1,035	223				
固	定	6,205	277	3,508	1,775	645				
人	工	呼	吸	373	271	12	26	64		
心	マ	ツ	サ	ジ	162	118	7	15	22	
心	肺	蘇	生	1,588	1,243	50	141	154		
酸	素	吸	入	16,709	10,570	772	849	4,518		
気	道	確	保	2,401	1,849	75	216	261		
(再掲)気道確保のうち気管挿管		185	132	1	36	16				
保	温	5,563	3,654	301	707	901				
被	覆	3,935	183	1,119	2,196	437				
在	宅	療	法	継	続	128	112	1	7	8
ショックパンツによる血圧保持		8	6		1	1				
除	細	動	216	192	4	8	12			
静脈路確保(輸液)		403	318	12	40	33				
薬	剤	投	与	123	96	4	14	9		
血	圧	測	定	67,885	40,575	5,542	9,266	12,502		
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		15,288	10,805	1,466	1,374	1,643				
血中酸素飽和度の測定		70,128	41,715	5,631	9,564	13,218				
心	電	図	31,940	23,501	1,470	2,471	4,498			
その他の応急処置		35,129	23,171	2,289	4,573	5,096				
計(再掲の気管挿管を除く)		259,975	158,856	22,596	34,278	44,245				

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、平成27年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ並びにえびのインターチェンジから人吉インターチェンジまでを沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

なお、平成26年中の本県における救急活動は、下表のとおりである。

高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

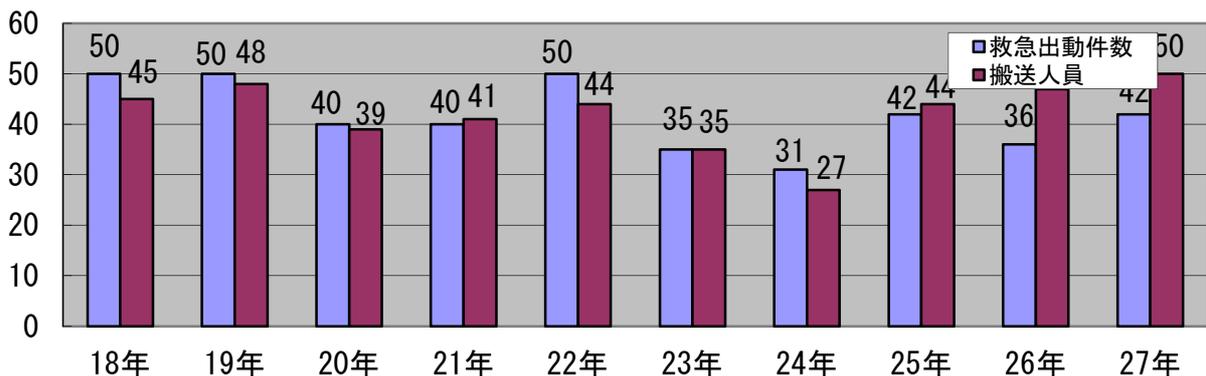
区分	インターチェンジ名(IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島	3	4	24	昭和63.3.29
	鹿児島北	1	1	3	昭和52.11.15
	薩摩吉田	7	11	1	昭和48.12.13
始良市消防本部	始良	7	8	1	昭和48.12.13
	加治木				昭和48.12.13
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	8	10	1	平成17.11.7
	横川	1	2		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	2	4	3	昭和55.3.22
計	8 IC	29	40	33	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区分	インターチェンジ名(IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示医療機関数	高速道路における救急活動開始年月日
霧島市消防局	国分	1	1	3	平成14.3.2
	隼人東	6	4		平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	6	5		平成14.5.9
計	3 IC	13	10	3	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、本県における救急業務の高度化について協議を行い、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、275名が認定を受け19消防本部で実施が可能となっている。

また、平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与についても416名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、平成27年12月末までに応急手当指導員2,163名、応急手当普及員425名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

平成27年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	856回	16,138名受講
上級救命講習	17回	265名受講
救急入門コース	413回	12,790名受講
その他の講習	1,622回	50,854名受講
計	2,908回	80,047名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	平成28年	平成27年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,073	1,105	△ 32	0.97
うち救急救命士有資格者②	484	471	13	1.03
(②/①:%)	(45.1%)	(42.6%)		
(②のうち気管挿管認定者)	299	288	11	1.04
(②のうち薬剤投与認定者)	445	416	29	1.07
うち救急科（救急標準課程）	589	634	△ 45	0.93
(③/①:%)	(54.9%)	(57.4%)		
救急自動車数④	138	108	30	1.28
うち高規格車⑤	108	101	7	1.07
(⑤/④:%)	(78.3%)	(93.5%)		
救急隊数⑥	108	108		1.00
うち救急救命士運用隊⑦	108	105	3	1.03
(⑦/⑥:%)	(100.0%)	(97.2%)		

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は484名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が43名、救急自動車に搭乗しない資格者が67名で、有資格者は計594名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分 消防本部別	人口 (人) H27年 国調	面積 (km ²)	救 急 体 制										
			救急車総数 (台)			救急 隊数	救急 救命 士運 用隊 数 ※2	救急隊員数 (人)					
			うち 高規 格	うち 予備 車	計			うち資格者・修了者			専任	兼任	
								救急 救命 士	標準 課程	救急 Ⅱ課 程			
鹿児島市消防局	605,846	547.57	21	20	5	16	16	95	53	38	4	63	32
枕崎市消防本部	23,638	74.78	3	1	1	2	2	32	8	18	6		32
出水市消防本部	55,621	329.98	4	3	1	3	3	16	13	3		16	
垂水市消防本部	16,168	162.11	3	2	1	2	2	41	14	24	3		41
薩摩川内市消防局	99,589	682.94	9	4	2	7	7	52	30	18	4	10	42
日置市消防本部	49,263	253.01	4	4	1	3	3	14	14			14	
霧島市消防局	126,773	603.18	8	8		8	8	53	46	7		46	7
いちき串木野市 消防本部	31,144	112.30	3	3	1	2	2	38	12	20	5		38
南さつま市消防本部	38,704	28359.00	5	4		5	5	67	21	40	6	21	46
始良市消防本部	74,809	231.25	5	4	1	3	3	26	21	5		26	
さつま町消防本部	24,109	303.90	3	3	1	2	2	16	9	6	1	8	8
指宿南九州消防組合	83,461	506.69	8	6		8	8	102	35	64	3		102
阿久根地区消防組合	34,259	250.42	6	4	2	4	4	51	15	28	8		51
伊佐湧水消防組合	40,899	536.69	6	3	1	5	5	63	23	24	11		63
大隅曾於地区消防組合	86,470	781.06	9	9	2	7	7	40	37	3		40	
大隅肝属地区消防組合	142,942	1,160.90	11	11	1	10	10	76	32	44		30	46
沖永良部与論地区 広域事務組合	18,198	114.15	4	3	2	2	2	35	14	11	10		35
徳之島地区消防組合	25,591	247.91	4	1	1	3	3	46	11	19	16		46
熊毛地区消防組合	45,454	993.69	9	5	4	6	6	89	37	30	22		89
大島地区消防組合	73,939	878.34	13	10	3	10	10	121	39	64	17	8	113
計	1,696,877	37,129.87	138	108	30	108	108	1,073	※1 484	466	116	282	791

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は484名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が43名、救急自動車に搭乗しない資格者が67名で、有資格者は計594名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。

[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は平成27年中、左記以外は平成28年4月1日現在]

医療機関数 (件)											人口 10万人 当たりの救急 医療機関数	現場 到着 平均 所要 時間 (分)	収容 平均 所要 時間 (分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関							
	国 公 立	公 的	私 的		計	国 公 立	公 的	私 的		計			
病 院			診 療 所	病 院				診 療 所					
638	3	3	26	3	35	14	6	65	518	603	5.8	8.5	32.9
19	1		3		4			4	11	15	16.9	4.5	30.0
40	2				2	1		4	33	38	3.6	8.6	35.9
11	1		1		2				9	9	12.4	7.0	42.2
83		1	5		6			8	69	77	6.0	9.4	36.2
44			1		1	1		7	35	43	2.0	8.9	41.4
94	1		4	1	6	1		8	79	88	4.7	8.7	40.0
29								6	23	29		5.7	34.6
38	2		1		3	3		4	28	35	7.8	6.6	35.4
63			3		3	3		7	50	60	4.0	7.6	35.4
20			1		1			4	15	19	4.1	9.4	45.0
69	1		3	2	6			15	48	63	7.2	6.7	35.3
18			2		2		2		1	16	5.8	8.6	41.6
31	1		2		3			4	24	28	7.3	8.0	41.0
43			1	1	2			8	33	41	2.3	9.1	48.3
110	2		5	2	9	1		9	91	101	6.3	9.6	42.6
12			2		2				10	10	11.0	7.8	27.1
8			2		2			1	5	6	7.8	9.5	38.4
21	1		2		3	4		1	13	18	6.6	8.8	39.3
89	1		4		5	7		5	72	84	6.8	10.0	40.4
1,480	16	4	68	9	97	35	8	160	1,167	1,383	5.7	8.2	36.6

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分		事故種別救急出動件										
		計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病
消防本部名												
鹿児島市消防局		28,130	80	5	10	2,137	176	159	3,673	127	326	17,236
枕崎市消防本部		1,066	1		1	79	9	3	138	4	9	551
出水市消防本部		2,199	2	1	1	184	20	16	279	4	29	1,372
垂水市消防本部		920	2		4	71	11	2	110	1	2	552
薩摩川内市消防局		4,173	20	1	5	267	35	41	540	18	37	2,459
日置市消防本部		2,101	1		1	148	13	25	288	3	15	1,179
霧島市消防本部		5,682	3		4	540	48	41	745	12	49	3,323
いちき串木野市消防本部		1,186	1		4	77	15	9	143	1	14	600
南さつま市消防本部		1,837	4		5	139	13	32	244	1	17	978
始良市消防本部		3,358	2		1	260	23	19	482	8	30	1,919
さつま町消防本部		1,136	3	2		98	7	13	148	1	21	613
指宿南九州消防組合		3,881	4		6	302	37	25	481	9	36	1,978
阿久根地区消防組合		2,109			4	112	15	10	258	5	13	1,279
伊佐湧水消防組合		1,997	1		3	126	15	4	289	4	20	1,015
大隅曾於地区消防組合		4,081	3		3	361	72	35	564	11	36	2,499
大隅肝属地区消防組合		7,002	4	1	8	603	59	57	866	20	58	4,215
冲永良部与論地区 広域事務組合		784	1		6	45	4	7	123		9	492
徳之島地区消防組合		1,713	1	1	1	90	6	16	244	8	13	1,259
熊毛地区消防組合		2,146	1	1	2	100	15	10	365	4	17	1,386
大島地区消防組合		4,141	3	1	8	189	28	21	644	23	24	2,623
計		79,642	137	13	77	5,928	621	545	10,624	264	775	47,528
時 間 区 分	0~2	3,472	6		1	122	8	2	408	49	39	2,557
	2~4	2,654	6			73	6		261	33	37	2,030
	4~6	2,756	3	2	2	129	9		284	22	25	2,107
	6~8	5,235	8	2	6	574	29	3	753	10	58	3,543
	8~10	9,590	16	1	6	758	107	37	1,359	8	77	5,380
	10~12	10,333	14	1	9	722	145	161	1,340	13	86	5,174
	12~14	9,332	17	2	18	623	76	114	1,182	9	81	4,751
	14~16	8,637	23	2	7	723	119	101	1,187	10	83	4,592
	16~18	8,425	13	1	11	858	73	49	1,258	12	90	4,436
	18~20	7,862	14	2	7	767	24	43	1,108	22	89	4,921
	20~22	6,462	7		6	325	16	35	869	30	57	4,566
	22~24	4,884	10		4	254	9		615	46	53	3,471

〔平成27年中〕

数				事故種別搬送人員											
その他				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
転院搬送	医師搬送	資輸 機材 等送	その他												
3,556		1	644	25,525	22	2	7	2,099	158	157	3,467	110	232	15,613	3,658
253	4		14	1,017	1			85	9	3	135	4	4	524	252
275	1		15	1,984	2	1	1	178	18	15	249	3	21	1,223	273
162	1		2	896	2		3	77	10	2	108	1	1	531	161
724	2		24	3,805	6		4	278	33	41	510	12	22	2,216	683
425			3	1,977	1			135	13	25	272	3	13	1,091	424
897	17	1	2	5,194	4		3	487	46	40	680	12	34	2,994	894
320	2			1,125	1		3	75	14	9	139	1	8	556	319
391	5		8	1,751	5		1	137	13	32	237	1	14	921	390
607	2		5	3,206	1			262	20	19	471	7	22	1,792	612
223	6		1	1,079	2	1		102	7	13	141	1	12	579	221
989	5		9	3,699	3		4	297	34	25	465	9	24	1,849	989
404			9	2,053			3	128	15	10	254	5	10	1,224	404
518	1		1	1,940	1		2	133	15	4	278	6	12	974	515
492			5	3,882	2		3	352	71	35	541	9	23	2,355	491
1,096			15	6,534	3	1	5	592	57	60	805	15	44	3,852	1,100
94		1	2	726			4	44	4	6	120		6	449	93
73			1	1,666	1	2	1	92	6	16	239	6	3	1,228	72
213	21	1	10	2,038	1	1		108	15	10	353	4	9	1,323	214
545	2		30	3,395	3	1	4	168	23	19	509	16	14	2,144	494
12,257	69	4	800	73,492	61	9	48	5,829	581	541	9,973	225	528	43,438	12,259
213		1	66	3,130	3			116	7	2	376	41	33	2,338	214
153		1	54	2,402	2			70	6		238	28	30	1,877	151
122		1	50	2,489	1	1	1	121	8		259	19	18	1,933	128
203			46	4,841	5	2	2	557	27	3	711	7	35	3,295	197
1,741	12		88	8,836	5	2	2	726	97	34	1,323	6	46	4,857	1,738
2,584	21		63	9,585	6	1	7	706	136	161	1,268	10	52	4,659	2,579
2,371	13	1	74	8,623	10	1	10	587	73	114	1,107	8	48	4,300	2,365
1,698	11		81	7,981	12	1	5	725	110	101	1,108	9	54	4,148	1,708
1,528	8		88	7,831	5	1	9	845	70	50	1,184	11	62	4,057	1,537
799	4		62	7,336	2		4	793	23	42	1,031	19	62	4,565	795
494			57	5,955	5		5	322	16	34	807	30	47	4,196	493
351			71	4,483	5		3	261	8		561	37	41	3,213	354

表15 曜日別月別救急出動件数

(平成27年中)

事故種別 (件)		火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計
												転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他	
区分																
曜 日 別	月	13	3	15	823	87	51	1,539	36	132	6,970	2,080	6		111	11,866
	火	27	6	20	949	98	38	1,393	38	114	6,605	1,983	8		112	11,391
	水	23		5	871	110	41	1,436	30	113	6,677	1,772	17	4	104	11,203
	木	23	2	15	855	107	50	1,518	23	95	6,657	1,812	8		103	11,268
	金	15	1	7	902	101	43	1,401	41	93	6,806	2,052	8		119	11,589
	土	18		8	820	73	131	1,578	46	118	6,752	1,620	16		134	11,314
	日	18	1	7	708	45	191	1,759	50	110	7,061	938	6		117	11,011
計		137	13	77	5,928	621	545	10,624	264	775	47,528	12,257	69	4	800	79,642
月 別	1月	15		6	492	46	31	975	28	54	5,031	1,110	9	1	75	7,873
	2月	22	1	3	410	44	24	820	15	60	3,961	1,003	8		61	6,432
	3月	17		4	449	57	32	871	15	56	4,089	1,097	7		77	6,771
	4月	5		8	418	40	33	753	16	68	3,529	1,032	4		64	5,970
	5月	15	2	10	494	47	48	852	27	70	3,845	1002	6		78	6,496
	6月	8	2	5	521	41	46	805	22	69	3,607	909	2		63	6,100
	7月	9	2	7	502	60	69	822	25	73	4,196	1031	4	2	71	6,873
	8月	12	5	11	566	81	58	956	24	64	4,328	1034	11	1	88	7,239
	9月	11	1	4	491	63	55	837	24	76	3,525	958	7		72	6,124
	10月	12		6	486	41	64	984	22	52	3,655	999	4		55	6,380
	11月	4		10	521	49	45	829	14	75	3,629	982	4		41	6,203
	12月	7		3	578	52	40	1120	32	58	4,133	1,100	3		55	7,181

4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16
【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
平成27年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	24	8	14		2	3	15
	応急手当指導員講習Ⅱ	31	19		12			14
	応急手当指導員講習Ⅲ							
	消防長認定者	40	33	4		3	6	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	13	13				1	
	計	108	73	18	12	5	10	29
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	505	394	16	55	40	26	49
	応急手当指導員講習Ⅱ	926	504		422			371
	応急手当指導員講習Ⅲ	2	1			1		1
	消防長認定者	541	474	42		25	28	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	81	81				3	
	計	2,055	1,454	58	477	66	57	421
合計	2,163	1,527	76	489	71	67	450	

表17
【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
平成27年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	83	2		10	5	66	23
	応急手当普及員講習Ⅱ	17			17			2
	消防長認定者	2					2	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	102	2		27	5	68	25
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	302	37		50	2	213	33
	応急手当普及員講習Ⅱ							
	消防長認定者	21					21	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者							
	計	323	37		50	2	234	33
合計	425	39		77	7	302	58	

第2 救助活動の概況

1 救助業務実施体制

平成28年4月1日現在，救助隊は29隊配置されており，そのうち5隊が特別救助隊で，1隊が高度救助隊である。

また，337人の救助隊員のうち32.3%にあたる109人が専任救助隊員である。

表18 救助体制

(単位：隊，人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	42		42
	4	2		2	28		28
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1	1	2	11	11	22
	4	1		1	11		11
	5						
日置市消防本部	3		1	1		12	12
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2	2	11	13
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		8	8
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3	1		1		14	14
	4						
	5						
始良市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		12	12
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		2	2		20	20
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		25	25
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		7	7
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	18		18
	4	1		1	9		9
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	30	40
	4	1		1	10		10
	5						
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		15	15
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		22	22
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		21	21
	4						
	5						
大島地区消防組合	3	1		1	10		10
	4						
	5						
県計	3	11	18	29	109	228	337
	4	5		5	58		58
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊，省令4は省令第4条の規定による救助隊（特別救助隊），省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 助	はしご車	屈 折	ポンプ車	水 槽 付	化 学 車	そ の 他	計
	工 作 車		はしご車		ポンプ車			
消防本部								
鹿児島市消防局	3							3
枕崎市消防本部	1		1					2
出水市消防本部	1	1						2
垂水市消防本部							1	1
薩摩川内市消防局	1				1			2
日置市消防本部	1							1
霧島市消防局	2	1			1			4
いちき串木野市消防本部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始良市消防本部	1							1
さつま町消防本部	1							1
指宿南九州消防組合	2	1						3
阿久根地区消防組合	1						1	2
伊佐湧水消防組合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1							1
沖永良部与論地区 広域事務組合	1							1
徳之島地区消防組合	1							1
熊毛地区消防組合	1							1
大島地区消防組合	1							1
県 計	25	6	1		4		5	41

2 救助業務実施状況

平成27年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数727件、救助活動件数471件、救助人員497人となっている。（表-20）

これを前年と比較すると出動件数は80件（9.9％）の減少、活動件数は22件（4.5％）の減少、救助人員は53人（9.6％）の減少となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

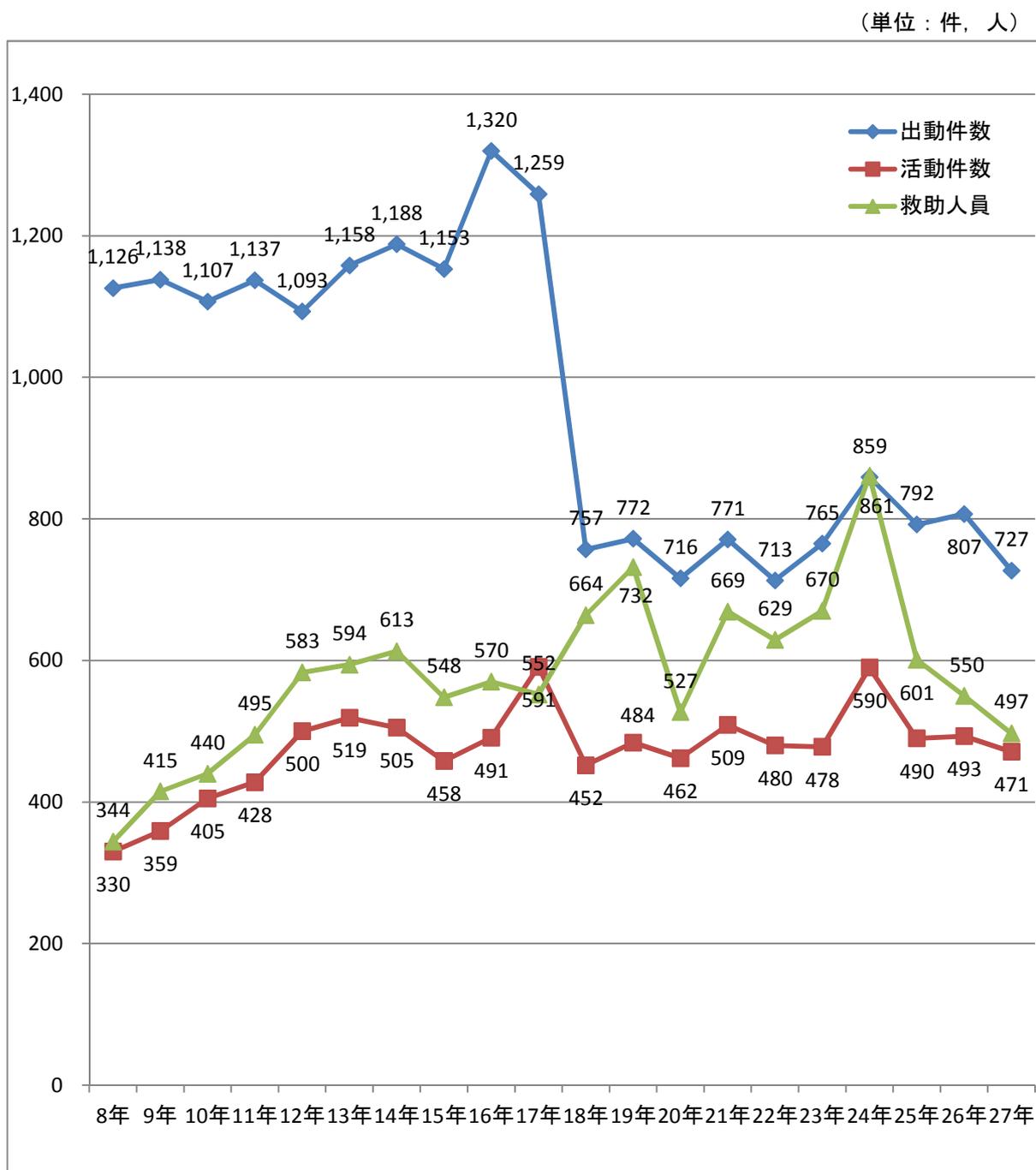


表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（平成26年）

（単位：件、人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等事故	ガス事故及び	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	15	42	7	3	1	22	2			32	124
枕崎市消防本部		14	3		1					2	20
出水市消防本部	2	10	1	1	2					5	21
垂水市消防本部	1	14	3		1					5	24
薩摩川内市消防局	1	32	7		2	3				6	51
日置市消防本部		21	1							3	25
霧島市消防局		43	3		3					7	56
いちき串木野市消防本部		9	3		1					1	14
南さつま市消防本部	14	20	4		1	4					43
始良市消防本部		23	1		2	1				17	44
さつま町消防本部		22								2	24
指宿南九州消防組合		29	4		2	9	1			19	64
阿久根地区消防組合		10	3							3	16
伊佐湧水消防組合		25	1		2					4	32
大隅曾於地区消防組合		37	2		1					15	55
大隅肝属地区消防組合	3	29	2		1	1				19	55
沖永良部与論地区広域事務組合		2	3		1	1				2	9
徳之島地区消防組合		1								1	2
熊毛地区消防組合		2	2							10	14
大島地区消防組合		20	1		1					12	34
救助出動件数 計	36	405	51	4	22	41	3			165	727
救助出動人員	専任救助隊員	120	658	84	18	27	164	7		378	1,456
	兼任救助隊員	54	577	71		35	33	2		169	941
	消防隊員	524	1,175	181	29	65	108	9		469	2,560
	救急隊員	73	1,626	154	9	61	95	4		448	2,470
	消防団員	294	7	21						60	382
	計	1,065	4,043	511	56	188	400	22		1,524	7,809

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（平成27年）

（単位：件，人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等事故	ガス欠事及び	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	15	37	5	3			20	1		26	107
枕崎市消防本部		6	3							2	11
出水市消防本部	2	5		1	1					5	14
垂水市消防本部	1	14	3		1					5	24
薩摩川内市消防局	1	23	4		2		1			3	34
日置市消防本部		12								2	14
霧島市消防局		19	2		1					5	27
いちき串木野市消防本部		3	1							1	5
南さつま市消防本部	14	7	3		1		3				28
始良市消防本部		20	1		2		1			15	39
さつま町消防本部		15								1	16
指宿南九州消防組合		18	4		2		8			13	45
阿久根地区消防組合		3	2							2	7
伊佐湧水消防組合		13	1							3	17
大隅曾於地区消防組合		13	1		1					4	19
大隅肝属地区消防組合	3	11			1		1			10	26
沖永良部与論地区広域事務組合			1		1		1			2	5
徳之島地区消防組合		1								1	2
熊毛地区消防組合		1	2							9	12
大島地区消防組合		8			1					10	19
救助活動件数 計	36	229	33	4	14	35	1			119	471
救助活動人員	専任救助隊員	69	353	43	11	21	87	4		206	794
	兼任救助隊員	45	262	48		18	23	2		100	498
	消防隊員	172	647	94	17	36	69	2		303	1,340
	救急隊員	36	796	93	6	39	62			288	1,320
	消防団員		5	8						12	25
	計	322	2,063	286	34	114	241	8		909	3,977

（注）「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（平成27年）

（単位：人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等	ガス欠等	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	8	35	4	1			16	1		17	82
枕崎市消防本部		7	3							2	12
出水市消防本部	1	5		1	1					4	12
垂水市消防本部	1	26	4		1					5	37
薩摩川内市消防局	1	26	5		2	1				3	38
日置市消防本部		14								2	16
霧島市消防局		25	2		1					5	33
いちき串木野市消防本部		3	1							1	5
南さつま市消防本部		7	3		1	3					14
始良市消防本部		37	1		2	1				16	57
さつま町消防本部		18								1	19
指宿南九州消防組合		22	3		2	7				15	49
阿久根地区消防組合		3	2							2	7
伊佐湧水消防組合		16	1							3	20
大隅曾於地区消防組合		13	1		1					4	19
大隅肝属地区消防組合	3	12			1	1				10	27
冲永良部与論地区広域事務組合			1		1	1				2	5
徳之島地区消防組合		1								1	2
熊毛地区消防組合		2	3							15	20
大島地区消防組合		10			1					12	23
救助人員計	14	282	34	2	14	30	1			120	497

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般 用 救 助 用 器 具	かぎ付きはしご	34	隊 員 保 護 用 器 具	耐電手袋	121	
	三連はしご	32		耐電衣	39	
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	16		耐電ズボン	41	
	空気式救助マット	23		耐電長靴	72	
	救命索発射銃	34		防塵メガネ	114	
	サバイバースリング又は救助用縛帯	83		携帯警報器	86	
	平担架	15		防毒マスク	78	
	重 量 物 排 除 用 器 具	油圧ジャッキ		37	化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）	24
		油圧スプレッダー		11	陽圧式化学防護服	52
		可搬ウィンチ		33	耐熱服	25
マンホール救助器具		21	放射線防護服	64		
救助用簡易起重機		1	特殊ヘルメット	7		
マット型空気ジャッキ		33	除器 染 用 具	除染シャワー	2	
大型油圧スプレッダー		22	除染剤散布器	2		
救助用支柱器具		8	水 難 救 助 用 器 具	潜水器具	49	
チェーンブロック		8		救命胴衣	223	
切 断 用 器 具		油圧切断機		21	水中投光器	23
	エンジンカッター	32		救命浮環	74	
	ガス溶断機	21		浮標	14	
	チェーンソー	32		救命ボート	14	
	鉄線カッター	44		船外機	10	
	空気鋸	29		水中スクーター		
	大型油圧切断機	22		水中無線機	2	
	空気切断機	17		水中時計	17	
	コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー	9	水中テレビカメラ	2		
	破 壊 用 器 具	万能斧	75	山用 器 具	登山器具	15
ハンマー		38	救 具	バスケット型担架	39	
携帯用コンクリート破壊器具		19	検 用 器 具	簡易画像探索機	6	
削岩機		19	高 度 救 助 器 具	画像探索機	10	
測 定 用 器 具	ハンマドリル	17	地中音響探知機	2		
	生物剤検知器	2	熱画像直視装置	10		
	可燃性ガス測定器	24	夜間暗視装置	2		
	有毒ガス測定器	28	水中探査装置	1		
	酸素濃度測定器	14	地震警報器	1		
呼 吸 保 護 用 器 具	放射線測定器	46	そ の 他 の 救 助 用 器 具	投光器	52	
	空気呼吸器	176	携帯投光器	51		
	空気補充用ポンプ	240	携帯拡声器	55		
	酸素呼吸器	41	携帯無線機	56		
	簡易呼吸器	12	応急処置用セット	22		
	防塵マスク	115	車両移動器具	16		
	送排風機	29	緩降機	24		
	エアラインマスク	2	ロープ登降機	45		
		救助用降下機	29			
		発電機	54			

第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当てが必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）
 十島村以北
 陸上自衛隊第15旅団 第15飛行隊（沖縄県那覇市）
 奄美大島以南

1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

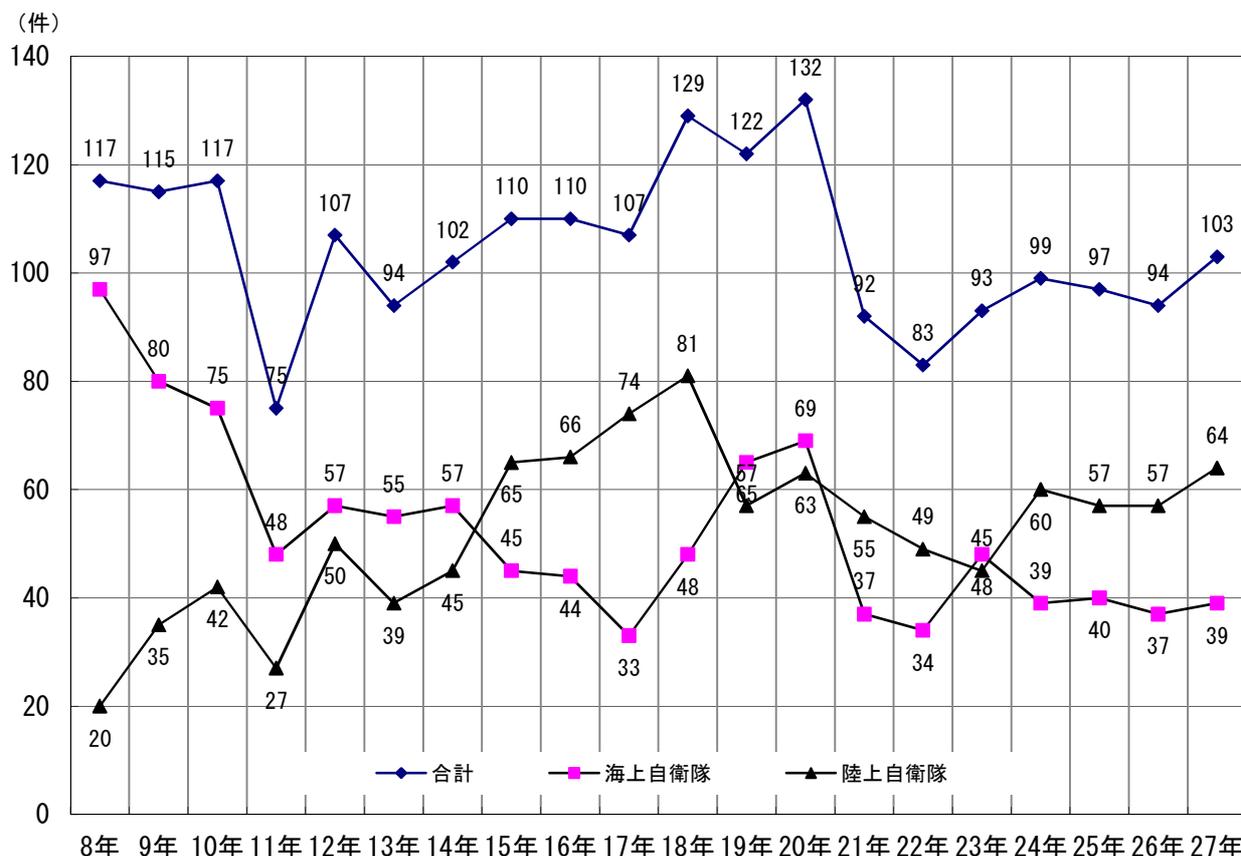
平成27年中における急患搬送出動件数は103件である。（図9）

出動件数103件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が75件（全体の72.8%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が23件（同22.3%）、鹿児島郡が5件（同4.8%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、7月の16件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では18時から20時までが17件、20時から20時までが17件で最も多くなっている。（表25）

平成27年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが49人（全体の47.1%）で最も多く、次に産科・婦人科系及び脳疾患が13人（同12.5%）となっている。

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

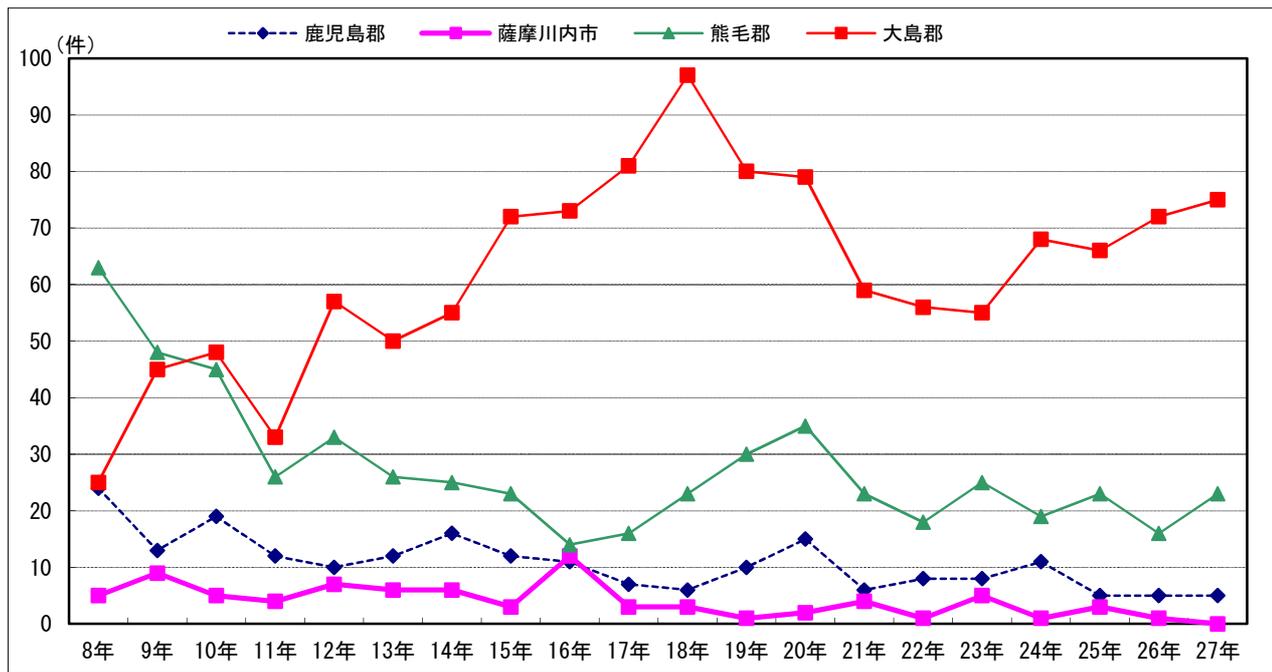


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊毛郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 8 年		117 (21)	24	5	63	25 (21)	
9		115 (35)	13	9	48	45 (35)	鹿屋1件
10		117 (42)	19	5	45	48 (42)	鹿屋1件
11		75 (27)	12	4	26	33 (27)	鹿屋1件
12		107 (50)	10	7	33	57 (50)	鹿屋2件
13		94 (39)	12	6	26	50 (39)	鹿屋2件
14		102 (45)	16	6	25	55 (45)	鹿屋2件
15		110 (65)	12	3	23	72 (65)	
16		110 (66)	11	12	14	73 (66)	
17		107 (74)	7	3	16	81 (74)	
18		129 (81)	6 (1)	3	23	97 (80)	鹿屋1件
19		122 (57)	11	1	30	80 (57)	鹿屋2件, 沖縄2件
20		132 (63)	16	2	35	79 (63)	鹿屋1件
21		92 (55)	6	4	23	59 (55)	
22		83 (49)	8 (1)	1	18	56 (48)	鹿屋1件, 沖縄2件
23		93 (45)	8	5	25	55 (45)	鹿屋1件, 沖縄1件
24		99 (60)	11	1	19	68 (60)	沖縄1件
25		97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
26		94 (57)	5	1	16	72 (57)	沖縄1件
27		103 (64)	5	0	23	75 (64)	
計		2,098 (1,052)	217 (2)	81	554	1246 (1050)	沖縄分構成比
構成比率		100.0%	10.3%	3.9%	26.4%	59.4%	(50.1%)

- (注) 1 () 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
 2 便宜上、熊毛郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。
 3 平成7年、12年、14年、19年及び20年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

年別 区分		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月 別	1	8 (1)	9 (2)	10 (2)	5 (1)	12 (8)	8 (5)	5 (2)	5 (2)	10 (6)	9 (5)
	2	12 (4)	11 (4)	13 (5)	5 (2)	12 (6)	5 (3)	8 (5)	4 (4)	15 (10)	8 (8)
	3	7 (2)	8 (3)	11 (6)	13 (5)	4 (1)	8 (2)	8 (4)	13 (5)	10 (4)	10 (7)
	4	7 (2)	15 (9)	13 (4)	4 (3)	6 (3)	5 (2)	2 (1)	8 (5)	9 (5)	10 (7)
	5	9	8 (2)	8 (3)	9 (4)	9 (6)	6 (1)	11 (3)	11 (9)	7 (6)	11 (7)
	6	7 (1)	7 (1)	9 (7)	2	11 (6)	7 (5)	5 (4)	12 (5)	4 (3)	8 (6)
	7	13 (1)	7 (2)	11 (6)	11 (5)	7 (4)	6 (3)	13 (7)	9 (5)	7 (4)	7 (6)
	8	14 (3)	12 (2)	10 (1)	5	9 (4)	8 (2)	7 (4)	5 (3)	4 (2)	5 (5)
	9	9 (2)	3 (1)	4 (1)	4 (2)	7 (1)	10 (4)	14 (3)	8 (7)	15 (11)	8 (5)
	10	10 (2)	14 (4)	10 (4)	3 (2)	12 (4)	9 (4)	13 (5)	13 (5)	10 (7)	13 (10)
	11	5 (1)	8 (1)	3 (1)	6	12 (5)	17 (4)	8 (2)	11 (7)	11 (6)	8 (4)
	12	16 (2)	13 (4)	15 (2)	8 (3)	6 (2)	5 (4)	8 (5)	11 (8)	8 (2)	10 (4)
計		117 (21)	115 (35)	117 (42)	75 (27)	107 (50)	94 (39)	102 (45)	110 (65)	110 (66)	107 (74)
時 間 別	0~2	6 (3)	3 (1)	2	4	5 (1)	2 (1)	6	10 (6)	6 (3)	3 (3)
	2~4	4	3	1 (1)		5 (1)	5 (3)	9 (4)	2 (1)	2 (1)	4 (2)
	4~6	2	5 (2)	4 (2)	1 (1)	10 (8)	6 (1)	3 (1)	2	5 (4)	4 (2)
	6~8	6	7 (3)	4 (3)	3	4 (2)	2 (2)	3 (3)	3 (2)	6 (3)	10 (8)
	8~10	11 (2)	7 (3)	11 (6)	8 (4)	11 (9)	6 (4)	11 (6)	19 (16)	13 (9)	7 (5)
	10~12	13 (2)	20 (9)	17 (7)	8 (7)	9 (6)	12 (6)	12 (6)	21 (12)	21 (15)	14 (9)
	12~14	13 (1)	11 (1)	20 (7)	8 (3)	4 (3)	8 (5)	8 (4)	9 (7)	11 (6)	11 (10)
	14~16	18 (2)	13 (2)	15 (6)	11 (3)	8 (4)	8 (3)	8 (5)	6 (6)	12 (10)	8 (5)
	16~18	10 (3)	13 (5)	14 (4)	12 (3)	14 (5)	16 (4)	12 (4)	12 (6)	9 (3)	14 (9)
	18~20	18 (6)	21 (6)	10 (3)	8 (4)	17 (3)	8 (4)	16 (8)	5 (1)	11 (7)	9 (6)
	20~22	5	8 (2)	14 (2)	8 (2)	10 (2)	9 (3)	9 (4)	14 (5)	9 (3)	14 (8)
22~24	11 (2)	4 (1)	5 (1)	4	10 (6)	12 (3)	5	7 (3)	5 (2)	9 (7)	

(注) 1 ()内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。

(年中)

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	計
11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)	7 (4)	11 (3)	3 (2)	14 (6)	6 (3)	6 (4)	180 (81)
11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)	9 (7)	4 (4)	13 (8)	1 (1)	2 (1)	10 (6)	168 (101)
9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)	3 (2)	9 (4)	5 (3)	9 (6)	10 (6)	9 (8)	181 (95)
11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)	7 (3)	5 (1)	11 (5)	7 (3)	10 (8)	6 (3)	160 (84)
7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (2)	4 (4)	147 (81)
11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)	6 (4)	8 (1)	8 (4)	8 (4)	8 (5)	3 (2)	146 (76)
11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)	5 (3)	7 (6)	9 (6)	15 (7)	7 (5)	16 (11)	176 (99)
13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (2)	9 (7)	2 (1)	8 (7)	9 (4)	163 (74)
8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)	5 (4)	9 (5)	7 (5)	6 (5)	6 (2)	10 (4)	152 (74)
6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)	11 (1)	10 (7)	9 (4)	10 (7)	12 (8)	11 (6)	218 (102)
17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)	10 (4)	12 (4)	11 (8)	12 (8)	9 (5)	11 (6)	208 (88)
14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)	9 (9)	7 (4)	9 (4)	8 (5)	11 (5)	8 (6)	199 (97)
129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)	83 (49)	93 (45)	99 (60)	97 (57)	94 (57)	103 (64)	2098 (1052)
6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)	7 (6)	5	8 (5)	5 (4)	8 (5)	7 (6)	110 (52)
3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	3	5 (2)	4 (2)	6 (3)	4 (1)	7 (2)	75 (29)
5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)	1 (1)	1	5 (2)	2 (1)	3 (2)		70 (35)
5 (3)	7 (4)	3	2 (1)	1	1 (1)	5 (5)	3 (3)	5 (4)	2 (2)	82 (49)
11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)	9 (6)	9 (4)	5 (5)	3 (3)	9 (6)	5 (4)	185 (107)
21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)	9 (4)	10 (8)	9 (6)	10 (9)	6 (3)	12 (8)	268 (159)
19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)	12 (6)	6 (2)	5 (2)	14 (9)	10 (8)	10 (6)	216 (118)
5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)	11 (8)	5 (2)	7 (5)	5 (3)	6 (5)	9 (2)	192 (96)
18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)	7 (5)	11 (8)	13 (8)	14 (8)	10 (3)	17 (11)	248 (120)
13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)	5 (2)	14 (3)	15 (9)	16 (6)	13 (9)	17 (12)	258 (110)
11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	10 (6)	20 (12)	11 (6)	10 (4)	9 (6)	11 (8)	215 (99)
12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	8 (5)	6 (3)	12 (5)	9 (4)	11 (5)	6 (3)	179 (78)

表26 平成27年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

市町村別		傷病別 合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿児島郡	三島村											
	十島村	5	1		2						2	
薩摩川内市												
熊毛郡 (西之表市含)	西之表市	9		3	1	1		1			3	
	中種子町	1							1			
	南種子町	3									1	2
	屋久島町	10			1	2	1		1		5	
大島郡 (奄美市含)	奄美市	16 (5)			1		1	3			9 (4)	2 (1)
	龍郷町											
	大和村											
	宇検村											
	瀬戸内町											
	喜界町	33 (33)	3 (3)				3 (3)	2 (2)			22 (22)	3 (3)
	徳之島町	9 (9)			1 (1)		3 (3)	1 (1)	3 (3)			1 (1)
	天城町											
	伊仙町	1 (1)							1 (1)			
	和泊町	6 (6)					2 (2)		1 (1)		2 (2)	1 (1)
	知名町	8 (8)		1 (1)			2 (2)	1 (1)	1 (1)		2 (2)	1 (1)
与論町	3 (3)									3 (3)		
計		104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)

(注1) ()内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送1名の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
8	126 (25)	5 (1)	5 (1)		5 (2)	28 (4)	14 (2)	5 (2)	2 (2)	60 (11)	2
9	116 (37)	1 (1)	2 (1)	4 (1)	5 (1)	32 (10)	3 (1)	3 (1)	11 (4)	51 (16)	4 (1)
10	117 (43)	1 (1)	3 (2)		3	33 (11)	2 (1)	10 (6)	6 (1)	52 (18)	7 (3)
11	75 (28)	2	1 (1)	1	1	13 (6)	5 (2)	6 (2)	4	37 (15)	5 (2)
12	106 (51)	3 (2)	1 (1)		2	30 (18)	3 (3)	12 (6)	7 (3)	45 (18)	3
13	92 (39)	1 (1)	2	2 (1)	5 (1)	20 (9)	2 (2)	4 (3)	5 (2)	41 (16)	10 (4)
14	102 (46)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	15 (5)	7 (3)	5 (4)	13 (8)	48 (18)	5 (2)
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。
・不搬送1名の傷病者は含まない。

第4 消防・防災ヘリコプターの活動

1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かかつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港（現枕崎ヘリポート）に防災航空センターを設置するとともに枕崎市、南さつま市、指宿南九州の3消防本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

なお、平成26年4月1日から、大隅曾於地区消防組合より派遣された消防職員1名を加え、航空隊7名体制となっている。

2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

(1) 災害応急対策活動

ア 被災状況等の調査及び情報収集活動

イ 食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資、人員等の搬送

ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動

エ その他、災害応急対策上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(2) 救急活動

ア 山村、離島等からの救急患者の搬送

イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送

ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の病院搬送

エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送

オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(3) 火災防御活動

ア 林野火災等における空中からの消火活動

イ 被災状況調査及び情報収集活動

ウ 消防隊員、消防資機材等の搬送

エ その他、火災防御活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(4) 救助活動

ア 河川、海等での水難事故、山岳遭難事故等における捜索または救助

イ 高層建築物火災における救助

ウ 山崩れ等の被害により、陸上から接近できない被災者等の救助

エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助

オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

(5) 広域航空消防防災応援活動

ア 県が締結している他県との相互応援協定等による相互応援

(6) 災害予防活動

(7) 自隊訓練のための活動

(8) 各種防災訓練等への参加等

(9) その他知事が必要と認める活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

型 式	ベル式412EP型
定 員	13名（増槽タンク非装着時15名）
最 大 全 装 備 重 量	5,398kg
空 虚 重 量	3,820kg
有 効 搭 載 量	1,578kg
航 続 距 離	720km
最 大 巡 航 速 度	259km/h
限 界 高 度	6,096m
全 長	17.1m
全 幅	2.9m
全 高	4.6m
消 火 用 水 積 載 量	1,400ℓ（ドロップタンク）

3 消防・防災ヘリコプターの運航状況

平成27年中における運航件数は203件となった。

過去10年間の推移は下図のとおりであり、救急活動、山岳や海上での捜索、救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

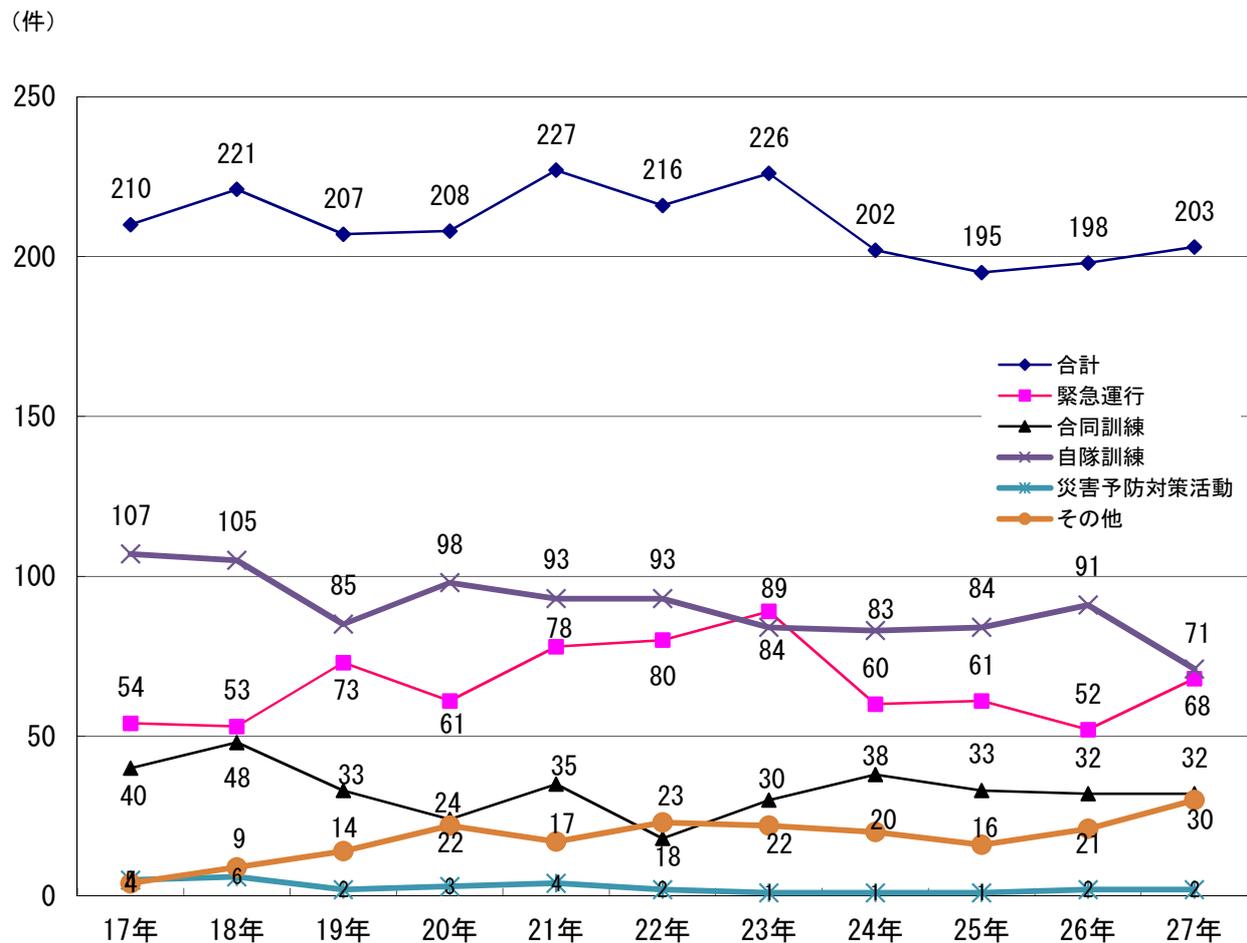


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(平成27年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	総計	
緊急運航	災害応急対策活動	件数					4	3	3	5	1			16	68件 85時間10分	
		時間					5:05	6:45	6:55	7:15	2:15			28:15		
	救急活動	件数		4	2	1	7		2	2	4	4				26
		時間		2:30	1:35	1:35	4:30		2:15	1:50	5:20	3:40				23:15
	火災防 御活動	件数														
		時間														
	救助活動	件数	1	2	1		6		4	1	3	3				21
		時間	2:00	1:05	0:20		4:30		8:15	1:25	6:20	2:40				26:35
	広域応援	件数					1		1		2	1				5
		時間					2:50		0:55		2:05	1:15				7:05
災害予防活動	件数	1				1								2	2件	
	時間	0:50				2:05								2:55	2時間55分	
合同訓練	他県広域関係	件数										2		2	32件 41時間20分	
		時間										5:55		5:55		
	縣市町村関係	件数		2	2		3			1	7	7	2	1		25
		時間		2:20	1:35		4:20			0:50	7:35	6:35	2:55	4:05		30:15
	合同訓練事前訓練	件数								1	3	1				5
		時間								1:35	2:30	1:05				5:10
自隊訓練	件数		4	12	14	5	6	7	5	6	7	1	4	71	71件	
	時間		5:50	17:10	18:35	5:50	5:40	9:10	4:55	6:20	8:15	0:40	3:15	85:40	85時間40分	
その他	件数	1	4				2	1	4	2	3	1	12	30	30件	
	時間	0:55	5:50				0:20	0:05	12:15	4:35	7:20	0:20	8:50	40:30	40時間30分	
合計	件数	3	16	17	15	27	11	18	19	28	26	6	17	203	203件	
	時間	3:45	17:35	20:40	20:10	29:10	12:45	27:35	30:05	37:00	30:50	9:50	16:10	255:35	255時間35分	

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況（H27年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	5/1	ア	肝付町	1:20
2	1	5/29	ア	屋久島町口永良部島	1:25
3	1	5/29	イ	屋久島町口永良部島	0:15
4	1	5/30	ア	屋久島町口永良部島	2:05
5	1	6/12	ア	屋久島町口永良部島	2:05
6	1	6/20	ア	屋久島町口永良部島	2:30
7	1	6/22	ア	屋久島町口永良部島	2:10
8	1	7/7	ア	屋久島町口永良部島	3:30
9	1	7/22	イ	肝付町	1:40
10	1	7/22	ア	肝付町, 霧島市	1:45
11	1	8/17	ア	鹿児島市桜島	1:15
12	1	8/19	ア	鹿児島市桜島	1:20
13	1	8/26	イ	十島村平島, 中之島	2:20
14	1	8/30	ア	三島村黒島	1:15
15	1	8/31	イ	三島村黒島	1:05
16	1	9/4	イ	三島村黒島	2:15
16件 16回 28時間15分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	2/13	オ	指宿市	1	0:15
2	1	2/17	ア	屋久島町	1	1:30
3	1	2/20	オ	南さつま市	1	0:15
4	1	2/28	イ	枕崎市	2	0:30
5	1	3/8	オ	指宿市	1	0:15
6	1	3/10	ア	西之表市	1	1:20
7	1	4/6	ア	屋久島町	1	1:35
8	1	5/2	オ	屋久島町	1	0:40
9	1	5/5	オ	指宿市	1	0:10
10	1	5/19	オ	屋久島町	1	0:45
11	1	5/25	オ	指宿市	1	0:15
12	1	5/25	オ	霧島市	1	0:30
13	1	5/26	ア	屋久島町	1	1:20
14	1	5/29	ア	屋久島町口永良部島	3	0:50
15	1	7/14	オ	出水市	1	1:20
16	1	7/23	オ	屋久島町	1	0:55
17	1	8/14	イ	西之表市	0	1:10
18	1	8/21	オ	屋久島町	1	0:40
19	1	9/4	ア	西之表市	1	1:05
20	1	9/20	オ	指宿市	1	0:10
21	1	9/28	ア	十島村諏訪之瀬島	1	2:25
22	1	9/30	ア	十島村口之島	1	1:40
23	1	10/9	オ	指宿市	1	0:15
24	1	10/10	オ	屋久島町	1	0:30
25	1	10/14	ア	西之表市	1	1:10
26	1	10/30	オ	出水市	1	1:45
26件 26回 23時間15分						

(3) 火災防御活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
0件 0回 0時間00分					

(4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/2	ア	薩摩川内市(水難捜索)	2:00
2	1	2/13	ア	指宿市(山岳救助)	0:40
3	1	2/20	ア	南さつま市(水難救助)	0:25
4	1	3/8	ア	指宿市(山岳救助)	0:20
5	1	5/2	ア	屋久島町(山岳救助)	0:55
6	1	5/5	ア	指宿市(山岳救助)	0:25
7	1	5/16	ア	枕崎市(水難捜索)	1:05
8	1	5/19	ア	屋久島町(山岳救助)	0:50
9	1	5/25	ア	指宿市(山岳救助)	0:25
10	1	5/25	ア	霧島市(山岳救助)	0:50
11	1	7/6	ア	屋久島町(山岳捜索)	2:15
12	1	7/7	ア	屋久島町(水難捜索)	1:35
13	1	7/8	ア	屋久島町(水難捜索)	2:05
14	1	7/23	ア	屋久島町(山岳捜索)	2:20
15	1	8/21	ア	屋久島町(山岳救助)	1:25
16	1	9/20	ア	指宿市(山岳救助)	1:00
17	1	9/22	ア	薩摩川内市(水難捜索)	1:10
18	2	9/23	ア	薩摩川内市(水難捜索)	4:10
19	1	10/9	ア	指宿市(山岳救助)	0:15
20	1	10/10	ア	屋久島町(山岳救助)	1:00
21	1	10/20	ア	屋久島町(山岳救助)	1:25
21件 22回 26時間35分					

(5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	5/4	ア	熊本県(救急)	2:50
2	1	7/8	ア	宮崎県(救急)	0:55
3	1	9/12	ア	宮崎県(救助)	1:25
4	1	9/12	ア	宮崎県(救急)	0:40
5	1	10/23	ア	熊本県(火災)	1:15
5件 5回 7時間05分					

(6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	2/17	救急隊員投入	消防学校救急科学生連携訓練	1:15
2	1	2/23	情報収集	大規模災害想定訓練	1:05
3	1	3/1	情報収集・偵察・ドロップタンク消火	鹿児島市消防局山林火災想定訓練	0:55
4	1	3/3	エバック救助	日置市消防本部春季火災予防運動合同訓練	0:40
5	1	5/13	消防隊員投入	熊毛地区消防組合消防隊員投入訓練	1:45
6	1	5/21	要員・D-MAT搬送	平成27年度鹿児島県総合防災訓練	1:45
7	1	5/24	情報収集,SVノーマット救助	肝付町総合防災訓練	0:50
8	1	8/23	航空担架救助	日置市総合防災訓練	0:50
9	1	9/5	隊員搬送,傷病者搬送	伊佐湧水消防組合「救急の日」に伴う集団事故想定訓練	1:15
10	1	9/7	消防隊員投入	阿久根市消防組合消防隊員投入訓練	1:40
11	1	9/13	航空担架救助	平成27年度霧島合同山岳訓練	1:00
12	1	9/13	エバック救助	平成27年度曾於地区総合防災訓練	0:55
13	1	9/15	ドロップタンク消火	始良市消防本部防災ヘリコプター合同訓練	0:55
14	1	9/18	救助隊員投入	鹿児島市国際消防救助隊救助活動訓練	1:00
15	1	9/24	航空担架救助	鹿児島市消防局山岳救助連携訓練	0:50
16	1	10/5	消防隊員投入,バーティカル担架救助	指宿南九州消防区組合連携訓練	1:00
17	1	10/9	航空担架救助	鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練	1:00
18	1	10/9	消防隊員投入	開聞岳山岳救助合同訓練	0:50
19	1	10/18	ドロップタンク消火	日置市吹上秋祭り2015	0:30
20	1	10/19	隊員搬送,傷病者搬送	薩摩川内市消防局合同訓練	1:25
21	1	10/25	SV, エバック救助	いちき串木野市総合防災訓練	0:50
22	1	10/28	航空担架救助	鹿児島市消防局及び薩摩川内市消防局合同山岳救助訓練	1:00
23	1	11/4	地上支援要領	第20期救助科教育訓練	1:25
24	1	11/5	物資投入,SVノーマット救助	始良市総合防災訓練	1:30
25	1	12/20	ヘリテレ情報収集	原子力総合防災訓練	4:05
25件 25回 30時間15分					